



雪んこ

宮坂静生

猪のぬた場の吹雪くわが八十歳
わが声帯いたはる菰^{すゐな}仏の座
砂川の冬ずたずたに山椒の木
猫じやらし白く削がるゝまでが去^こ年^ぞ
枯山の臘脂に魅入る兜太以後
大鳥の嘴のかたち^に冬の百合
たれかれの魂を抱きて冬の百合

諏訪の舞踏家、ニューヨークからついに帰らず

御神渡^{ニム}新^ラ村^エ英^イ一^{イチ}わたり来る

*

真冬日の結^ゆ愛^あゆるしてくださいゆるしてください
結愛ちゃんの死は雪んこが包みたる
雪んこの結愛ちゃんたれが赦すのか
雪んこの結愛ちゃんいまも父母の子か
結愛ちゃんの憶えたる字の温かし
結愛ちゃんの化身ささ鳴きどこよりぞ

